

●第7期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（案）に対する市民意見公募の意見及び対応

意見の募集期間：平成30年2月1日（木）～2月14日（水）まで

ページ	意見の概要	意見への回答及び対応
	第7期の標記計画（案）は、現行の第6期計画より纏まりが良く（頁数が半減）、基本目標も大きく3点に要約されている点は評価できる。また、「ちょきん運動」にみられるような健康維持・増進、介護予防の取り組みには、着実に成果が現れ始めており、さらに推進することが望まれる。	評価していただき、ありがとうございます。 今後も住民の健康づくりや、地域づくりを推進します。
5	P5人口の推計について P16以降では、「資料：国「見える化」システムによる推計」にて平成29年度の数値が標記されていることから、また、当該計画（案）が平成30年1月版であることから、平成29年度推計を標記すべきである。	5頁の人口推計については、第7期計画期間を中心に、中期的な視点からの記載を意図しており、現行のとおりと致します。
6	高齢者人口・高齢化比率の推移、推計について 高齢化比率の理解を深めるためにも、P5表の総人口も標記すべきである。	P6の「高齢者人口・高齢化率の推移」及び「高齢者人口・高齢化率の推移」とともに、総人口を追記して、修正いたしました。
27	P27基本目標3の施策の方向・施策について 6保健福祉事業の実施、7給付費と保険料の推移について、いずれも「施策」欄が空白となっており、P65、P66の記述内容の概略等を注記すべきである。	P27の「6保健福祉事業の実施」につきましては、担当課内で検討し、空欄ではなく、事業概要を記載することとしました。 また、「7給付費と保険料の推移」については、検討中ということもあり、記載しておりませんでしたが、今後、内容を箇条書きで、記載する予定です。

30	アンケートの集計では、住民同士の「たすけあい」「ささえあい」に対する意識は高く、しかも「助ける側に立ちたい」という人が9割もいるのに反し、介護支援ボランティア登録は年々減少傾向(30頁)にある。この問題に対する方向性として「事業の周知・普及に努める」としているが、このままでは減少のトレンドに歯止めはかからず、対策とは言えないのではないか。 原因は、恐らく「介護支援ボランティア」という漠然とした人材募集のやり方にあるように思われるので、具体的に「家庭ごみの搬出」「外出同行(買物支援)」「移送サービス」等々、具体的な支援活動に絞り込んで支援者を募集してはどうか。 現に、「配食サービス」は活発に行われているし、移送サービスに類似した活動では防犯対策の「青パト」が市内を活発に巡回している。 これからの超高齢化社会は、「老々介護」に頼らなければ対処できないのは明白であり、住民には「支援したい」という意識もある。この高齢者パワーをいかに行動に結び付けるかは、行政の熱意とコーディネートにかかっているので、ぜひ「今後の方向性」に加筆をしていただきたい。	ご意見いただき、ありがとうございます。 介護支援ボランティアの周知・啓発及び、活動の在り方につきまして精査し、登録者の増加に向けた取り組みについて、検討いたします。
31	医療・介護の連携等地域ネットワークの充実」(31頁～)については、殆ど手つかず状態で、現行の第6期計画から何ら進歩がみられない。その原因は、「医療のことは医師・歯科医師・薬剤師、看護師等の医療関係者でなければ対応できない」点にあると思われる。事務方がいくら努力しても、現状の理解や把握さえ出来ていないのは、計画書に書かれている通りである。 本件の対応策としては、「医官」を市の職員として雇用すること。も	・平成29年12月に現状や課題の把握のために、医療機関(医科・歯科)、薬局、訪問看護事業所、訪問リハビリ事業所にアンケート調査を実施いたしました。今後はこの結果を基に、在宅医療・介護連携をどの様に推進していくか検討してまいります。 また、「医療に詳しい職員の参加」についてのご意見はご指摘のとおりと考えますが、非常勤職員も含めた「医官」の市職員採用につきましては、貴重なご意見として伺わせていただきます。

	ちろん非常勤で構わないが、医療と介護、とりわけ医療に詳しい職員の参加が必要不可欠になる。 計画書では、③の「相談支援」（32 頁）の今後の方向性に「委託化の検討」を挙げているが、もう一歩突っ込んで、「医療専門職員の採用」まで踏み込んではいかがか。	
3 1 ~ 3 4	計画書では、①の「医療・社会資源の把握」から⑦の「切れ目のない……」まで、分からないことや手つかずのことばかり……と記しているが、実際には印西市はすでに核心に触れた取り組みを行っている。 その一つは、平成 29 年 2 月 19 日に市の文化ホール・多目的室で開催した「在宅医療講演会」。この講演会で「地域包括ケアシステム」について講演して下さった医師や歯科医師等の医療・介護関係者が実際に印西市で在宅医療を主に担っておられる方たちである。 二つ目は、2 月 3 日に開催した「地域包括ケアシステム講演会」で、歯科医から口腔ケアと栄養、認知症予防に関する貴重な講演があり、在宅歯科医療に取り組む市内の医療機関の紹介があった。他には「コグニサイズ」による認知症予防の話も感銘深かった。（この講演会は、計画書 33 頁の本年度実績欄に記載漏れになっている）	・講演会につきまして、パブリックコメント開始時には終了していなかった為、実績欄には記載しておりませんでしたが、完成版では修正いたします。 なお、当日は講演会にご参加いただきありがとうございました。
3 1 ~ 3 4	「地域包括ケアシステム」は医療抜きでは成り立たない。高齢者は大半がいろいろな疾病を抱えているし、基礎疾患がなくても肺炎や骨折等の緊急治療を要する病気等にもかかりやすい。印西市で、現に在宅医療や介護を熱心実践しておられる上記講演会時の講師の医師等には、是非、印西市の包括ケアシステム推進の顧問・アドバイザーのような業務を委託して、医療関係者と介護の専門家の組織化や連携に取り組んで頂くべきかと思われる（医療関係者相互の取り組みを行政が	・現在、当市でも医師会や歯科医師会、薬剤師会との連携に取り組んでおります。まだまだ、十分に連携が図れているとは言えない状況ですが、今後はこれらの医療関係者の方々との意見交換等を十分に行い、更に在宅医療・介護連携が図れるよう努めてまいります。

	支援・後押しをしたり、必要があれば資金面のバックアップもするような形)。 近隣の松戸市では、本年の 4 月から「在宅医療の拠点センター」を新設するというニュースが流れてきた。医師会が広域にわたる印西市の場合は、医師会の協力を取り付けることも簡単ではないが、何時までも手をこまねいているわけにはゆかない。 「医療と介護の連携」は、地域包括システムの中でも最も難しい課題であるが、行政の事務方だけで対処することには限界があるので、現に「印西市で在宅医療と介護に取り組んでおられる医師等に協力を仰ぐ」形で、この難問に対処することを強く望む。	
3 3	医療介護連携等地域ネットワークの充実 ⑥ 地域住民への普及啓発について 2月3日の講演会をH29年度実績の(予定)として記載すべきである。	・講演会につきまして、パブリックコメント開始時には終了していなかった為、実績欄には記載しておりませんでした。完成版では修正いたします。 なお、当日は講演会にご参加いただきありがとうございました。
3 4	⑧ 地域ケア会議の推進 市レベルの地域ケア会議の開催は、年 1 回では充分ではないように思いました。	既存の会議と調整を図る可能性があり年 1 回としていますが、各地域包括支援センター主催の地域思いやりケア会議と地域ケア推進会議から上がってくる地域課題について、市レベルの地域ケア会議で話し合うため、各地域包括支援センターの会議開催状況等を勘案し、検討していきます。
3 6	③ 認知症カフェについて 平成30年度からは、各地域包括支援センターの指定管理者へ委託するとのことだが、その旨を記述すべきである。	認知症の当事者やご家族、地域住民、ボランティア等の参加者のご意見を伺いながら、より身近な認知症カフェとなるよう事業内容を検討改善していくため、委託先につきましては記述をしておりません。
4 0	① 介護予防・日常生活支援総合事業の展開 このタイトルならば、ここには、訪問型・通所型サービスにおける「多様なサービスの創出に関する考え方や計画を入れるべきではないかと	多様なサービスの創出につきましては、記載のとおり地域状況の把握に努めております。今後、把握した情報を基にサービス創出の必要性や実情に即した対応方法等を検討していきます。

	思いました。	
4 5	標記について、シルバー人材センターの事業のひとつに「高齢者の生活支援サポート」がありますが、外出支援（買い物、通院など）の希望が交通の便が悪い地域及び歩行困難な高齢者から、その声が多くありますが、この連携が出来ていないようです。何が問題なのか分かりません。関係者の意見を聴取して、何が阻害なのか具体的な意見交換を実施して問題点を取り出して、実施に向けた施策への提案をお願いしたい。	今後も関係機関との連携を図ってまいります。
4 8	（２）災害時における支援体制の充実 支援体制構成団体には、地域包括支援センターやケアマネジャーなどの介護保険事業者も入れるべきではないかと思いました。実際に避難行動要支援者を支援するかと思います。	ご意見を踏まえ、完成版では、担当課内で協議した上で、修正いたします。
5 9	（３）認知症対応型通所介護について 「第７期計画では整備を見込んでいません」と記述しておいての「利用者ニーズの充足を図ります」「計画値Ａ」との記述、設定は矛盾であり、再考すべきである。	第６期計画の計画値Ａは、認知症対応型通所介護の事業所が１施設、新規に整備される前提で推計されております。 また、第７期計画の計画値Ａは、これまでの利用実績を反映したものとなっております。 また、「利用者ニーズの充足を図ります」という文言ですが、印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会委員の方より、認知症は、１つの病気として、扱われているので、認知症に特化し、分ける必要はないのではないか。一般のデイサービスに来て頂いて、他の方々と一緒に生活し、レクリエーションをやっていただけたら良いのではないかとという意見もございましたことから、利用定員１８名以下の小規模なデイサービスや通常規模のデイサービスを利用することで充足は図れると記載したものです。

6 0	(5) 認知症対応型共同生活介護 第7期計画の計画地が、H30、H31、H32、H37ともに99床となっていて、認知症老人が増えている現実とはかけ離れていると思います。	第7期計画期間中には、認知症対応型共同生活介護施設の整備は、予定しておりません。その為、現状の床数である99床としておりますが、次期計画の第8期計画作成の際には、認知症対応型共同生活介護施設の整備についても、検討課題になるものと認識しております。
6 2	施策の方向3-3 施設サービスの充実 (1) 介護老人福祉施設 H29の実績値394人/月です。 第7期の計画値は、H30が413人/月、H31が425人/月は、妥当といえますが、H32の525人/月は、あまりに急激な増加であり、下方修正が必要だと考えます。	H32の525人/月という数字は、伸びが急激過ぎないかのご意見ですが、今後、3年間（平成30年度～平成32年度）の将来推計の中で、第7期計画期間中に整備を予定している特別養護老人ホームの開所を平成32年度からとしたことによるものです。
6 2	(1) 介護老人福祉施設 100床の施設整備のニーズがあるのか、職員確保もかなり難しいのではないかと感じました。	現在、印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会（以下、策定委員会）において、第7期計画について、検討している所ですが、施設整備をするにあたり、ご指摘のご意見や次期計画である第8期計画での整備でも遅くないのではないかという意見が策定委員会委員の方からもございました。しかしながら、介護離職者ゼロを目指す国の方針や市内の特別養護老人ホームの待機者数などを勘案して、示したものになりますので、ご理解いただけたらと思います。
6 4	地域支援事業の充実 これは一般論なので、印西市としての具体的な計画を示していただきたいと思いました。	29ページからの地域包括ケアシステムの充実の中で具体的な内容は記載しております。

6 6	介護保険の「給付費と保険料の推計」（66 頁）については、「検討中」しているが、保険料を負担する市民（第 1 号被保険者）としては、最も関心の高いことである。 この項目の検討プロセスと結果については、できるだけ情報公開に努め、パブリックコメントの再実施等を強く要望する。	6 6 頁にある施策の方向 3－7 給付費と保険料の推計ですが、厚生労働省が運用しているシステムを利用し、推計作業を実施しております。 第 7 期計画（平成 3 0 年度～平成 3 2 年度）期間中における介護給付費の推計や介護保険料の算定に関わる介護報酬単価の改正に関わる情報や介護報酬の地域毎の単価の差を調整するための地域区分の変更に関わる情報がシステム反映されるのが遅れたこともあり、パブリックコメント実施の際には、検討中とさせていただいたものです。 また、検討プロセスと結果についてでございますが、印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会の議事録（要旨）を会議開催後にホームページに掲載してまいりますので、ご確認頂ければと思います。 なお、パブリックコメントの再実施等につきましては、申し訳ありませんが、実施する考えはございません。
6 7	② ケアプランの点検 印西市が行うケアプラン点検の目的はこれだけではなく、尊厳の保持や自立支援、またケアマネジャーの支援を主たる目的に行うものだと思いますので、それを載せてほしいと思いました。	介護支援専門員がケアマネジメントを行う上で、介護保険法の理念である、「尊厳の保持」と「自立支援」の視点に立ったケアマネジメントを行い、適切なケアプランとなっているかを確認します。確認過程の中で介護支援専門員の気づきを促すとともに、ケアプラン作成にあたり大きな偏りや整合性の取れない内容がみられた場合にはケアプランの適正化を図っていきます。 という記載に改めたいと思います。

6 9	(2) 就業につなげる場の提供について 「就業につなげるための場」としての「市が実施する各行事に合わせての介護保険サービス事業所紹介の場」記述すべきである。	ご提案ありがとうございます。 現在、こういった内容の行事であれば、就業につなげる場の提供が出来るか担当課内で検討しているところです。 また、過日、文化ホールでの講演会実施の際に、特別養護老人ホームの関係者がブースを設けて施設の周知等に努めた実績もございますので、平成30年4月以降も、こうした対応が可能な場合は、出来るだけ対応したいと思います。
7 1	P 7 1 資料について パブリックコメント用の閲覧用（案）では、1 要綱 2 名簿 4 用語集の掲載がされていない、掲載（閲覧提供）すべきである。	第7期計画の完成版では、盛り込むこととしておりますが、次期計画のパブリックコメント実施の際には、1 要綱 2 名簿 4 用語集を盛り込んでの実施が可能か検討したいと思います。
最終頁	パブリックコメント用の閲覧用（案）では、「奥付」が掲載されていない、掲載（閲覧提供）すべきである。	第7期計画の完成版では、盛り込むこととしております。なお、次期計画のパブリックコメント実施の際には、盛り込みたいと思います。
2 4 ~ 2 5	①印西市内の高齢者が多く住んでいる所は、地域によって違う。 ②高齢者が多く住んでいる地域はニュータウン地区では「牧の木戸1丁目、木刈3丁目、4丁目」、成田線沿線では「大森地区」「旧印旛村地区」「旧本埜村地区」である。 ③上記の4地域を高齢者福祉計画の先行モデルとして実行することが必要である。 ④印西市全体の計画案をみると、今、高齢者が多く住んでいる地域では福祉計画を実施する前に死亡してしまう。 ⑤印西市の特徴として、ニュータウン地区、旧印西市地区、旧印旛村地区、旧本埜村地区というように歴史も文化も違うのである。全体の計画も必要であるがモデル地区として試験的に先行実施して全体の地域を実施することが必要である。	第7期計画について、ご意見ありがとうございます。 今後の計画作成業務の参考とさせていただきます。

